

スツベキアツサ弓又引カヘス折モアリケリ

〔平治物語二〕義朝青墓落著事

義朝源ハ兎角シテ、美濃國青墓ノ宿ニ著給、彼長者大炊ガ娘延。壽ト申ハ、頭殿御志不淺シテ、女子一人御座ケリ、夜又御前トテ、十歳ニ成給、

〔平家物語一〕妓王事

太政入道清盛平は、かやうに天下を、たなご、ろのうちになぎり給ひしうへは、世のそしりをもはばからず、人のあざけりをもかへりみず、ふしぎの事をのみし給へり、たとへばそのころ、京中に聞えたるしらびやうしのじやうす、ぎ。王。ぎ。女。とておと、ひあり、と。ぢ。といふしらびやうしのむすめなり、しかるにあねのぎわうを、入道相國てうあひし給ひしうへ、いもとの妓女をも、世の人もてなす事なめならず、母とぢにもよきやつくつてとらせ、毎月に百石百くはんをくられたりければ、家内ふつきして、たのしひ事なめならず、略京中のしらびやうしども、ぎわうがさいはひのめでたきやうをきいて、うらやむものもあり、そねむものもあり、うらやむものどもは、あなめでたのぎわう御せん、さいはひやおなじゆう女とならば、たれもみなあのやうでこそありたけれ、いかさまにも妓といふ文字を名に付て、かくはめでたきやらん、いざや我らもついでみんとて、あるひは妓一妓二とつけ、あるひはぎふぎとくなどつくものもありけり、略又しらびやうしのじやうす一人出来たり、加賀の國のものなり、名をばほとけとぞ申ける、年十六とぞきこえし、略下

〔平家物語十〕かいだうくだり

本三位の中將しげひらの卿略同じき元暦三月十日の日、かちはら平三かげ時にぐせられて、關東へこそ下られけれ、略中夕ま暮、池田の宿にも著給ひぬ、かの宿の長者ゆやがむすめ、じい